

第9回ノーバディズ・パーフェクト・プログラムに参加して

奥田 智紗¹⁾

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム(Nobody's Perfect Program: 以下NPプログラム)とは、「完ぺきな親なんていない」という言葉のもと、0歳から5歳までの子どもをもつ親御さんのために開かれている子育て応援プログラムのことであり、親御さんが交流している間、託児スタッフの方と共に学生は託児をさせていただいた。

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、子どもがどんな行動をするのか身近で見て慣れておきたい、また将来自分が子育てをする際に参考にしたいと思ったからである。これまで、子どもと関わる機会がなかったので託児する子が泣いてしまったらどうしよう、懐いてくれるのだろうか等、分からないことばかりで期待よりも不安の方が初めはとても大きかった。しかし、託児スタッフの方々から事前講習を受けることで託児当日の流れや赤ちゃんの抱き方、泣いてしまったときの対処法や心構え等丁寧に教えていただき、不安は軽減された。

NPプログラム当初は託児担当の子が親御さんと離れるのが寂しくて大泣きをして、頭の中が真っ白になっていた。その際は、託児スタッフの方に助けていただき、泣き止んだ頃から一緒に遊んでいた。託児終了後の反省会では、振り返りシートにその日に起きた子どもさんのことを書き出し、自らの反省点・改善点を書き出して発表し、

託児スタッフの方からの感想やアドバイスを頂戴した。NPプログラムの開始前に、前回の振り返りシートに託児スタッフの方が毎回コメントを書いて下さっていた。これがとても自分の自信になり、「今日はこんな遊びを取り入れよう、親御さんにはどこが前回よりも成長したのか具体的に伝えよう」と意欲的に託児に取り組むことができた。回数を重ねるごとに子どもさんは徐々に泣く頻度が減り、笑顔が増え、懐いてくれてとても嬉しく、また愛おしかった。子どもさんの成長だけでなく、自分自身も以前に比べ子どもさんの行動に動揺しなくなったり、様々な種類の遊び方で遊べるようになったり等、成長できていると実感した。

私は子どもと関わることに慣れ、将来の参考にしたいと思ってこのプログラムに参加した。2ヶ月間のNPプログラムを終え、結果として、私は当初の目標を達成することができた。子どもと関わることは不安なこともあるが、それ以上に楽しかった。また、毎回反省点と改善点を振り返ることで自分が実施したいことを具現化することが出来、やりがいを感じながら楽しむことができた。さらに、親御さんの交流中の話を聞き、子育てをする親がどのようなことに悩みを抱えているのかを知ることができた。将来悩んだときにはNPプログラムを通して学び、感じたことを思い出そうと思う。

1) 広島文教女子大学人間科学部心理学科